



J. FRONT RETAILING

2012年 2月14日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者
 奥田 務
 お問合せ先 経営計画事業統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2012年1月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	1月度	9～1月度累計
百貨店業	1.5 (2.2)	2.0 (2.6)
スーパーマーケット業	▲ 8.3	▲ 6.8
卸売業	▲ 21.5	▲ 2.6
その他事業	12.1	▲ 0.6
連結合計	▲ 0.4	0.8

(注) 百貨店業合計の () 内は博多大丸長崎店(2011年7月31日営業終了)を除く既存店ベース。

2. 売上高概況

1) 百貨店業

- ・ 1月度の百貨店事業の売上高は、梅田店が大きく売上を伸ばし牽引したほか、手袋・マフラーなど防寒アイテムがクリアランスセールを中心に活発に動き、ラグジュアリーブランドや時計・宝飾品など高額品も好調に推移したことなどから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年 3.2%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同 2.2%増となった。なお大丸松坂屋百貨店、百貨店事業ともに10ヶ月連続で前年実績を上回った。

2) スーパーマーケット業

- ・ ピーコックストアは、特に首都圏の店舗を中心に競合店のオープンや改装の影響で苦戦したことや閉鎖店舗（みさと店など計3店舗および1事業所）の影響もあり、対前年▲8.3%減となった。地区別では、首都圏が対前年▲9.9%減、関西地区が同▲3.6%減、中部地区が同▲9.4%減であった。

3) その他

- ・ 卸売業の大丸興業は、ホームセンターや電子デバイスの苦戦により対前年▲21.5%減となった。
- ・ その他事業は、J.フロント建装、JFRカード、ディンプルなどが好調であった。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	グループ広報・IR担当
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2011年1月度 百貨店業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	1月度		9～1月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	▲5.8	▲4.4	▲4.9	▲7.1
大丸 梅田店	77.0	99.3	77.0	105.0
大丸 東京店	▲1.4	▲1.5	0.2	▲0.6
大丸 ららぽーと横浜店	3.3	-	8.7	-
大丸 浦和パルコ店	0.2	-	0.3	-
大丸 京都店	▲2.0	▲0.2	▲0.4	▲0.5
大丸 山科店	▲2.0	-	▲0.8	-
大丸 神戸店	▲3.4	▲2.9	▲1.6	▲2.2
大丸 新長田店	▲6.1	-	▲3.0	-
大丸 須磨店	▲4.0	-	▲2.1	-
大丸 芦屋店	▲1.7	-	▲0.7	-
大丸 札幌店	4.1	2.1	3.7	3.9
松坂屋 名古屋店	1.2	10.5	0.5	3.5
松坂屋 上野店	▲0.0	▲3.6	1.1	▲1.8
松坂屋 静岡店	▲7.7	5.5	▲2.7	9.1
松坂屋 銀座店	▲4.2	▲5.7	▲9.0	▲10.1
松坂屋 高槻店	▲6.1	4.3	▲0.7	6.3
松坂屋 豊田店	2.7	1.0	2.3	0.5
大丸松坂屋百貨店合計	3.2	10.2	3.6	10.2
博多大丸	▲5.7	▲7.1	▲4.9	▲6.0
下関大丸	0.0	▲5.0	▲2.1	▲6.7
高知大丸	▲3.5	▲2.8	▲1.8	▲0.9
百貨店事業合計	2.2	-	2.6	-

（注）博多大丸および百貨店事業合計の前年は、博多大丸長崎店（2011年7月31日営業終了）を除く。

前年に博多大丸長崎店を含めた1月度の博多大丸合計は対前年▲13.1%減、百貨店事業合計は同1.5%増。9～1月度累計は、博多大丸合計同▲11.6%減、百貨店事業合計同2.0%増。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	1月度	9～1月度累計
紳士服・洋品	2.2	4.7
婦人服・洋品	3.4	4.3
子供服・洋品	4.9	6.7
その他の衣料品	▲1.5	▲1.9
衣料品計	3.1	4.2
身回品	5.6	5.6
化粧品	▲0.2	1.2
美術・宝飾・貴金属	7.0	8.0
その他雑貨	▲8.5	▲7.6
雑貨計	1.7	3.3
家具	▲4.7	▲5.0
家電	▲6.4	▲12.2
その他の家庭用品	2.0	5.8
家庭用品計	▲0.2	2.1
生鮮	▲3.7	▲2.8
菓子	1.2	2.7
惣菜	2.9	5.6
その他食料品	5.6	1.8
食料品計	1.6	1.9
食堂・喫茶	9.9	9.7
サービス	▲17.4	▲15.9
その他	11.6	4.5
合計	3.2	3.6

3. 売上高概況

婦人服・洋品、紳士服・洋品ともに、梅田店増床効果によりヤング・ヤングアダルトファッションが売上を伸ばし、ラグジュアリーブランドも好調であった。身回品は、クリアランスの盛況に名古屋店の改装工事に伴う売りつくし効果も加わり婦人ブーツなどが活発に動いたほか、アクセサリも2桁増となった。雑貨は、宝飾品や時計などの高額品が好調を持続した。食料品は、増床効果が続く梅田店が牽引した。